

## 溶かす

### 1. アメンボ

流れがない水面で生活する昆虫です。公園の池には年中見られますが、ちょっとした水溜りでもやってきます。雨後にできた水溜まりが存在する間でも来る時があります。



名称は「飴の棒」の意味ですが、手に取ると実感できます。かなり強い甘い匂いが漂います。体は棒状ということです。手で持つ時、体側を掴まないようにしましょう。不用意に握ると刺されます。口はセミと同じように刺す針になっているカメムシの仲間だからです。匂いはカメムシ同様、脚の付け根にある臭腺という器官から出されます。

カメムシには植物の汁を吸う種と昆虫などから汁を吸う種がありますが、アメンボは全て肉食です。肉食といってもかじり取るのではなく、消化液を口針を通して注入し、消化されてドロドロになった餌の昆虫の組織を吸いとるというしくみです。したがって人が刺されても消化液が注入されるため、強い痛みを感じます。

水面での生活が有利な点は、餌となる小動物が水面に落ちてきた時、離れていても水面にできる波によってそれを知ることができるからです。素早く波の中心に行き、口針を刺すことができます。



雨の日は雨滴による波が生じるので、餌と識別できにくくなります。物陰に隠れたり、陸に上がったりしています。

水面で自由に動き回れるのは、体が軽いうえに、水の表面張力によって脚先にたくさんある毛が支えられているからです。洗剤は表面張力をなくす物質であるため、排水がたくさん流れこむような水では生きていけません。アメンボの存在は、きれいな水である証明です。

### 2. ヒトヨタケ

一夜のキノコの意味で、2日連続しての観察が必要です。傘が一晩で溶けてなくなってしまうことからつけられた種名で、本当に前日には普通のキノコのように見えていたものが、黒っぽいドロドロの液状になって



柄が伸び溶け始め

柄や地面に付着しています。弱々しそうに見えますが、傘の直径が5cmくらいにはなるので存在感はあります。右の写真ようにこの傘の縁が外に少し反り返った状態は、生育が終わり、溶け始める前です。



溶けたヒトヨタケ

土がよく出ている場所に生えるので、遊歩道で出会います。傘をたたんだ状態のように、細長くささくれのあるササクレヒトヨタケという種も打吹山で記録されています。同じように溶けてしまうキノコです。溶けるのは自己消化といわれ、黒く見えるのは液状の中に孢子が浮遊しているからだそうで、液体が流れることで孢子を散布しているのです。孢子を空中を飛ばすだけでなく、昆虫に食べさせて糞で拡散してもらうなど、キノコも多様な生き方をしているのです。

(倉吉博物館専門委員 國本洗紀 2024)